

資格の大原

第76回 税理士試験 簿記論

解答・合格ラインの読み

※問題・答案用紙は国税庁ホームページにてご確認ください。

今年も税理士試験
官報合格者の

多くが大原生です!!

■2025年度(第75回)税理士試験
大原生官報合格占有率(2026年1月8日現在)

48.5%

大原の合格者数は
直近1年分です!

比べたら分かる!
安心の実績

大原生合格者

256名

(専門課程 11名を含む)

全国官報合格者

527名

昨年から合格発表方法が変更され
合格者の確認が難しくなりました
<詳細は大原HPへ>



※大原生合格者は、全国大原グループにおいて合格するための授業、模擬試験等がすべて含まれたコースで、税理士試験合格に必要な受験科目の過半数を受講した方を対象としています。
◎資格の大原の合格実績には、公開試験のみの受講生、出版教材のみの購入者、資料請求者、情報提供のみの登録者、無料の役務提供者は一切含まれておりません。
※2024年度(第74回)税理士試験より合格発表の方法が受験地・受験番号・氏名から受験地・受験番号となり、合格者の確認が難しくなりました。

本解答は令和8年8月6日15時に学校法人大原学園が独自に作成したもので、予告なしに内容を変更する場合があります。また、本解答は学校法人大原学園が独自の見解で作成/提供しており、試験機関による本試験の結果等について保証するものではありません。本解答の著作権は学校法人大原学園に帰属します。無断転用・転載を禁じます。

(簿記論)

①	①	い	②	①	811
③	①	11	④	①	え
⑤	①	88	⑥	①	444
⑦	①	い	⑧	①	150
⑨	①	2,197	⑩	①	く
⑪	①	247,120	⑫	①	420
⑬	①	2,611	⑭	①	お
⑮	①	735	⑯	①	こ
⑰	①	62,305	⑱	①	1,300
⑲	①	293,805	⑳	①	さ
㉑	①	19,246	㉒	①	219,419
㉓	①	あ	㉔	①	く
㉕	①	17,229			

(簿記論)

問 1

(1)	②	3,000,000	円
(2)	②	1,170,000	円
(3)	①	12	年
(4)	①	178,500	円
(5)	①	60,000	円
(6)	②	632,000	円
(7)	②	185,400,000	円
(8)	②	256,000,000	円
(9)	②	170,000	円
(10)	200%定率法	②	131,625 円
	級数法	①	130,500 円

問2

(1)	①	①	180,000	千円
	②	①	125,000	千円
	③	①	0	千円
(2)	②	②	621,600	千円
(3)	①	①	475,900	千円
(4)	①	①	308,599※	千円

※ 308,600でも可

(簿記論)

(単位:円)

①	②	16,800,000
②	①	316,500,000
③	②	780,000
④	①	52,825,000
⑤	②	89,390,000
⑥	①	35,000,000
⑦	②	280,000
⑧	①	4,250,000
⑨	②	126,000
⑩	①	1,838,517,473
⑪	①	410,000,000
⑫	②	117,800,000
⑬	①	92,500,000
⑭	①	93,045,000
⑮	②	2,379,000
⑯	①	8,820,000
⑰	①	201,220,000
⑱	①	3,600,000
⑲	②	648,000
⑳	①	3,937,500

㉑	①	10,660,000
㉒	①	1,410,750
㉓	①	1,000,000
㉔	①	30,125,000
㉕	②	57,200,000
㉖	②	63,557,183
㉗	①	3,000,000,000
㉘	①	33,400,000
㉙	①	200,000
㉚	②	4,182,723
㉛	②	2,800,000
㉜	①	2,280,000
㉝	①	12,557,183
㉞	①	697,320,000
㉟	①	240,069,000
㊱	①	166,570,000
㊲	①	31,640,000
㊳	①	40,040,000

□合格ラインの読み口

今年の本試験は、第一問は1題形式、第二問は2題形式の個別問題、第三問は総合問題でした。第一問は比較的点数を伸ばしやすく、第二問は基礎的な内容の出題もありますが、一部馴染みの薄い論点も出題されていた問題でした。第三問は昨年の第三問と類似した問題構造でしたが、処理に手数を要する項目が多く、ボリュームも多い問題でした。

以下、各問のポイント及び合格ラインについて記載いたします。

〔第一問〕

本問は本支店会計（在外支店）の総勘定元帳の諸勘定の作成を中心とした問題でした。

まず、勘定科目の記号選択については、確実に得点してほしい箇所といえます。また、未達事項がなく、決算整理事項も比較的平易な内容であるため、支店利益や為替差損益が関係する箇所以外の金額算定の部分でも得点を積み上げていただきたい問題でした。

〔第二問〕

本問は固定資産に関する様々な処理を問う2題形式の個別問題でした。

問1 資本的支出及び収益的支出、建物付土地の取得、車両運搬具の買換え等の基本的な処理が問われている部分では、文章の読み取りミスに気を付けながら点数を伸ばしていきたい問題でした。なお、一部馴染みの薄い論点も出題されておりましたが、そのような部分で得点ができなくとも合否に影響はないものと思われます。

問2 のれんの減損に関する問題でした。情報の与え方や端数処理の仕方等、判断を迷わせるような部分もありましたが、特に〔設問〕(1)は確実に得点につなげていただきたい問題でした。

〔第三問〕

本問は前期末及び当期末の閉鎖残高勘定や決算整理事項等の資料をもとに、当期末の閉鎖残高勘定、当期の損益勘定並びに当期のキャッシュ・フロー計算書に計上される各金額等を求める問題でした。昨年に類似した形式の出題であり、問題構造を把握したうえで必要な資料を抽出しなければならないため、限られた時間内にすべてを解答することは困難な問題でした。

なお、有価証券、固定資産、従業員賞与については、決算修正の総合問題と同様の手順で解答ができるため、これらの論点を中心に得点を積み上げたい問題でした。

ボーダーラインは、第一問が15点、第二問が13点、第三問が23点で、合計では51点前後になると思われます。なお、合格確実ラインは合計59点以上になると思われます。

【簿記論】 学習経験者のための科目・コース選択ツール

税理士試験に早期合格するためには適正な科目、コース選択が非常に重要となります。本試験の出来及び皆さんの学習状況を踏まえた上で9月からの受講科目、受講コースをご検討ください。
なお、個々の学習状況、学習環境に応じた受講相談も承っておりますので担当講師などにお気軽にご相談ください。

・本試験で大原の合格確実ラインを超えている方
・本試験で大原のボーダーラインを超えており、かつ、
直前答練で概ね上位3割以内に入っている方

いずれかYES
→

次科目の学習をお勧めします。

↓ NO

・直前答練で概ね上位3割以内に入っている方

YES
→

次科目の学習をお勧めしますが、
不安のある方は、併せて経験者年内
完結コースの受講をお勧めします。

↓ NO

・直前答練で概ね上位7割以内に入っている方

YES
→

経験者年内完結コースの受講をお勧め
します。
なお、早期合格のためには、併せて次
科目の学習もお勧めします。

↓ NO

初学者一発合格コースをお勧めします。

簿記論 コース紹介

【初学者一発合格コース】 講義回数：57回（年内：週2回 年明：週1回）

学習経験者であっても知識の定着レベルが低い方（目安として、受験専門学校の直前答練で上位7割未満の方）については、経験者コースを受講するより初学者一発合格コースを受講して頂き、1年間という期間をかけて無理のない学習で確実に知識を定着させることが合格への近道となります。

このコースでは、年内の4ヶ月で基礎項目及び本試験での出題頻度が高い項目を優先的に学習し、1月からは基礎知識を踏まえた応用項目を学習します。3月期以降は多くの問題演習を通じて知識の定着を図るとともに合格答案作成能力を身に付けていただきます。さらに本試験に直結する試験委員対策を学習することにより1年で合格に必要な実力を身に付けることができます。

なお、初学者コースと経験者コースの学習範囲に差はありません。

【経験者年内完結コース】 講義回数：14回（週1回）

週1回のコースで、各回においてはテキストを使用した学習及び総合問題解答を実施します。また、3回～4回に1回のペースで確認テストを実施致します。

本試験においてボーダーライン以下となられた方で、受験専門学校の直前答練で上位7割までの学習習熟度であった方を対象としたコースです。

このコースでは、多くの受講生が苦手とする項目を中心に学習していきます。また、総合問題演習を通じてアウトプット力を養い、講義で学習した項目の理解と定着度合を確認することができます。

＜主な学習項目＞

退職給付会計、リース会計、外貨建会計、減損会計、特殊商品売買、本支店会計、組織再編会計、連結会計 等

＜配付教材＞

計算テキスト、計算問題集、確認テスト